
せんまい仕掛けの人形

天川りか

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ぜんまい仕掛けの人形

【NZコード】

N4979B

【作者名】

天川りか

【あらすじ】

「君」は押入れの奥から人形を取り出した。ぜんまい仕掛けの人形を。

押入れの奥の奥。

滅多に掘り出されるとの無いダンボールの中。
ひつそりと、でもしつかりとそこについた。

「懐かしいなあ、これ」

君はダンボールからひょいと人形を持ち上げた。
ぜんまい仕掛けで、ギーギーと言う音がする。
かなり古いが、ぜんまいを巻けば何とか動く。
それに、色褪せてはいるが、可愛い容姿とフリルの付いた服は健在
だった。

「良く遊んでいたんだよね、これで」

そう言つて君は左右に動かし、いろんな角度から見る。

「ぜんまい巻けば、動くかな?」

君は好奇心旺盛にぜんまいを回した。
ギシギシという音を立てながらぎこちなく動いた。
しかし所詮ぜんまい仕掛けで、長く動くことは出来なかつた。
それでも君は嬉しそうに目を輝かせている。

「洋服でもつくってあげよつ

結構暇人だなあ。

しかしこの散らかりよう。掃除の途中じゃないのか。まあいいか。
君は押入れからミシンを取り出し、布を取り出した。

小一時間が過ぎると、君は洋服を作り上げた。
昔から、器用なのは変わっていないみたいだ。
そして洋服を脱がすと、その服を着せた。

うん……まあ。

分かつてたけど。

「……飾ろう」

仕舞つておくのがもつたいなくなつたみたいだ。
埃を払うと、棚の上に飾つた。

スペースが狭くて、落ちそうになつたけれど、
君は見事にキャッチした。
そして物を退かし、十分なスペースを確保すると、
再度、置いた。

もう、落ちそうにはないよ。

だから、そんなに確かめなくともいいのに。

君は面を思い出したみたいに、
腕にあるへこみを気にかけていた。

次の日、君は泣いて帰ってきた。

君は僕の腕を引っ張ると、その場に崩れた。

嗚咽を漏らすばかりで、何も話そうとしない。

でも、その方がいいのかもしれない。

昔から、一度泣くと止まらなくて、

無理に喋らうものなら、咳が止まらなくなるのだから。
しかし今日は珍しく早く泣き止んだ。

成長、したんだな。

「……彼氏が、浮気してた……」

成る程ね。

というか君、彼氏いたんだ。

「……つそれでね、……何も、出来なかつた……」

そうだろうね。

浮氣現場を見てその場で追い詰められるほど、君は強くないから。
誰かに背中を押されないと、動けない。

僕みたいに、ね。

それからも君は泣き続けた。

僕はそこに居ることしか出来ない。

まあ、いいか。

居ても居なくても、僕が相談に乗ることなんて出来ないのだから。

君と僕は似てるねえ。

誰かが背中を押さないと動くことが出来ない。

背中に手を当てて自分自身を押すことも出来ない。

ああ、彼氏ついでに僕も真実を言おつか？

僕、男だから。

新しいフリルの服、嬉しいよう嬉しくなかつたよ。

小さこころから、気づいてなかつたでしょ？

僕が君を見たことも。

(後書き)

初の二人称作品です！
私なりに頑張ったので下手だとしても大目に見てください；

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4979b/>

せんまい仕掛けの人形

2010年12月11日03時18分発行